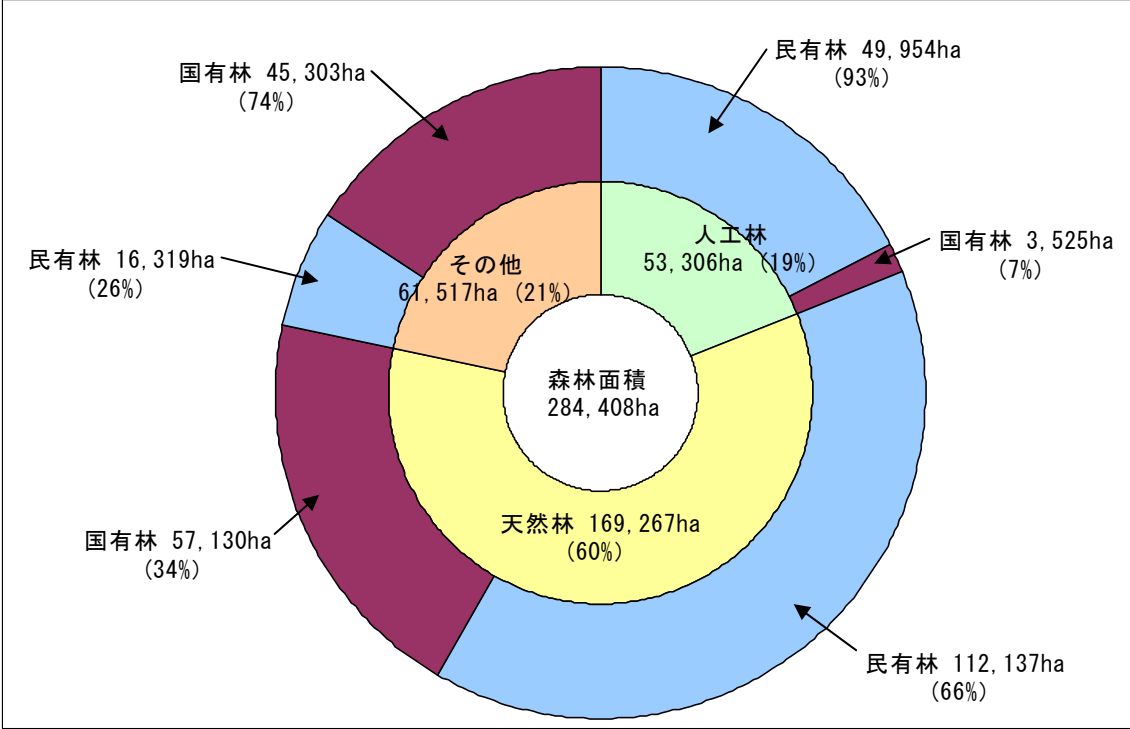


# 富山県の森林・林業の動向

## 1. 本県森林の現況 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

森林面積は県土面積の約 67%で、そのうち天然林の割合は 60%、人工林の割合は 19% となっています。人工林比率は全国で上から 46 番目となっています (全国平均 41%)。

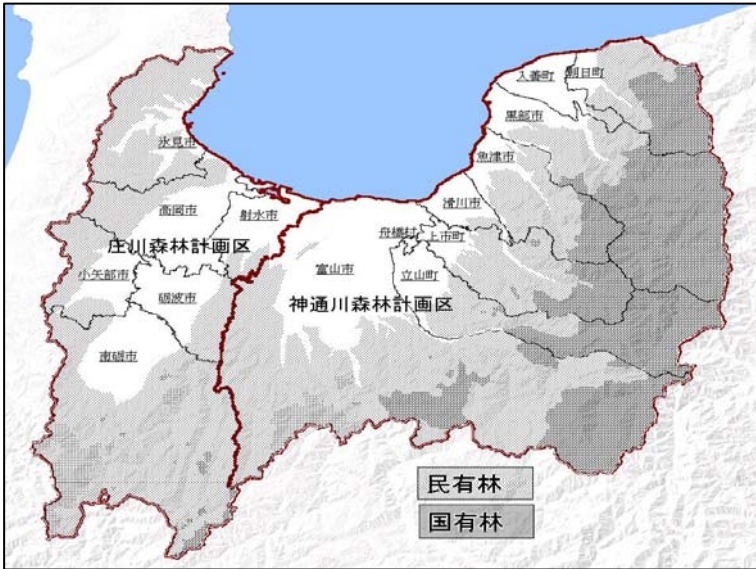


**【用語の解説】**

国有林…国が所有する森林。

民有林…国有林以外をいい、個人、会社、社寺等が所有する私有林、都道府県、市町村、財産区等が所有する公有林に区分される。

**(参考) 本県の森林計画区**



森林計画区とは、農林水産大臣が、都道府県知事の意見を聴き、地勢その他の条件を勘案し、主として流域別に都道府県の区域を分けたもの。全国 158 計画区、県内 2 計画区。

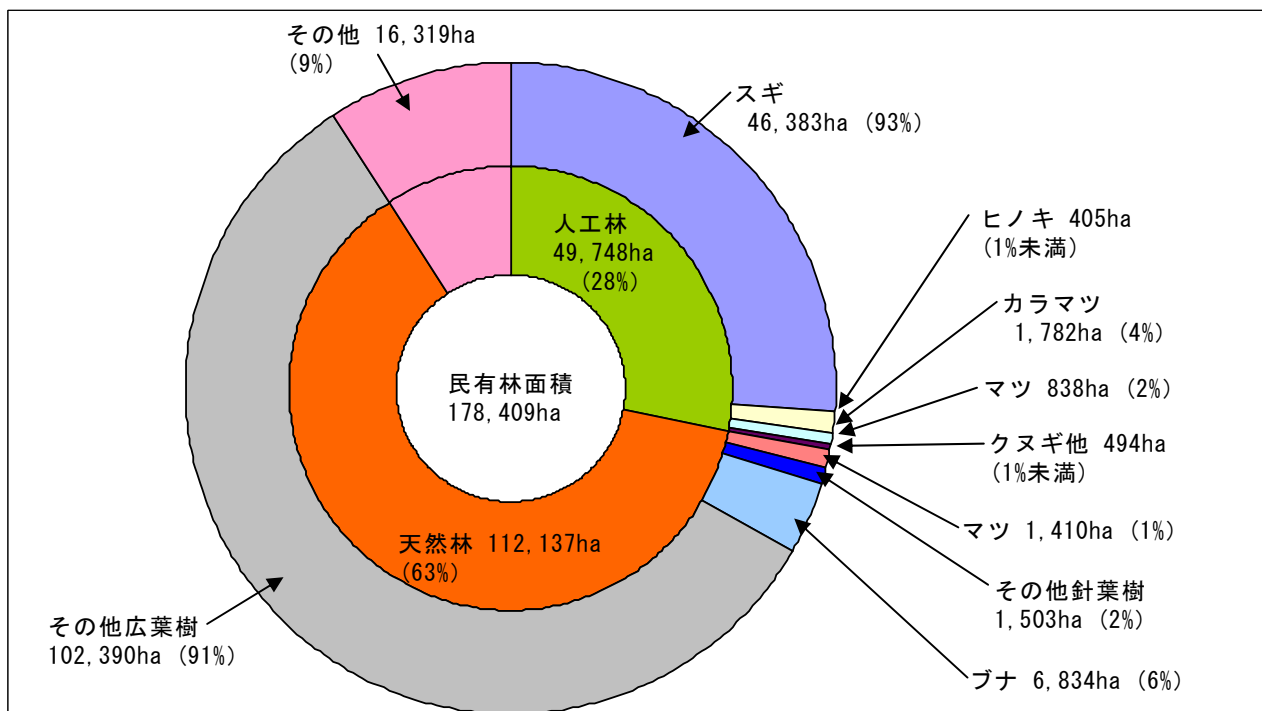
**神通川森林計画区**  
 富山市、立山町、上市町、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町

**庄川森林計画区**  
 氷見市、高岡市、射水市、小矢部市、砺波市、南砺市

## 2. 本県民有林の現況

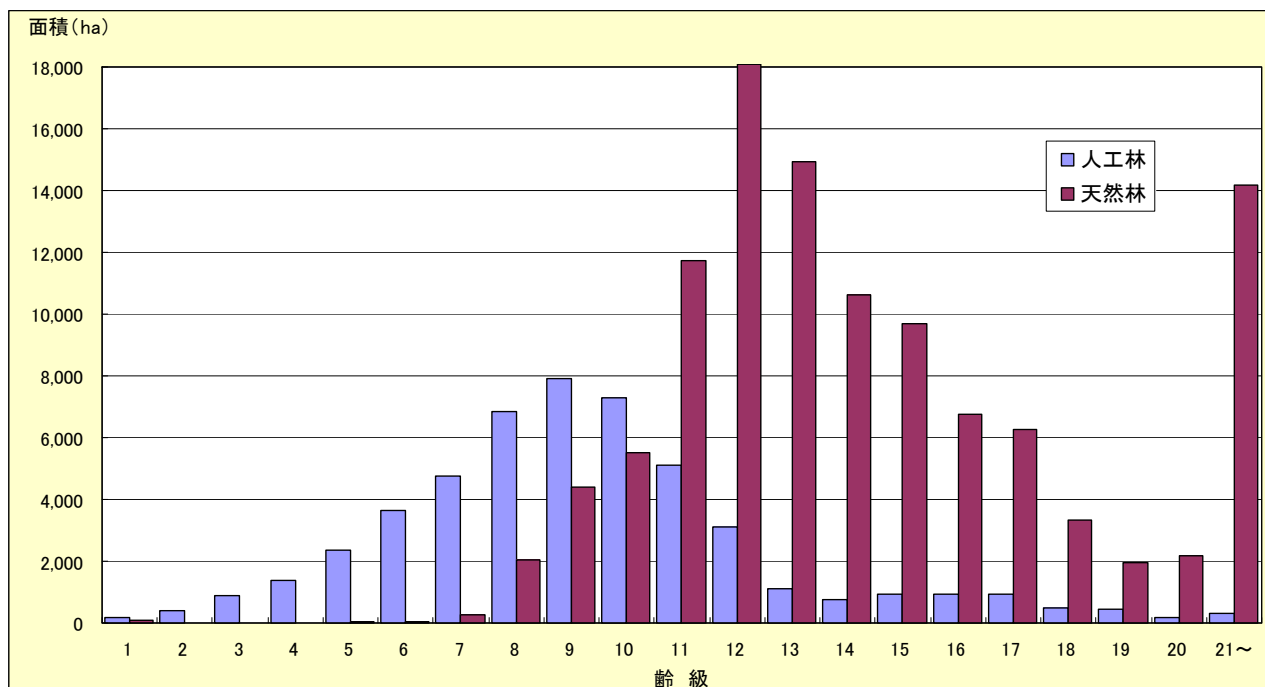
### (1) 樹種別森林面積（平成 21 年 3 月 31 日現在）

人工林の 93%はスギで占められています。



### (2) 人工林・天然林別齢級別森林面積（平成 21 年 3 月 31 日現在）

9 齢級を超える木材として利用可能な人工林面積は、約 22 千 ha で人工林全体の約 43%を占めています。



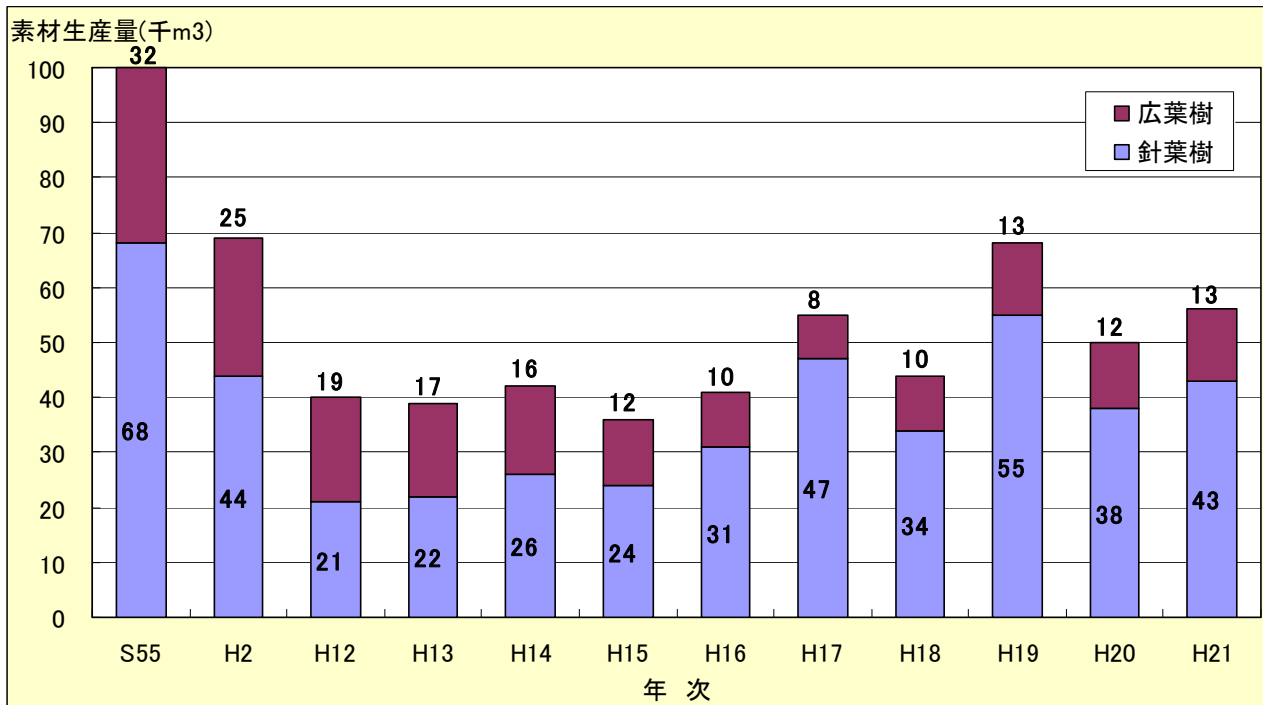
#### 【用語の解説】

齢級…森林の年齢を一定の幅でくくったもので、一般的に5年をひとくりりにしている。例えば1～5年生は1 齢級。人工林では苗木を植栽した年度を1年生とし、以後、2年生3年生と数える。

### 3. 本県の林業等の現況

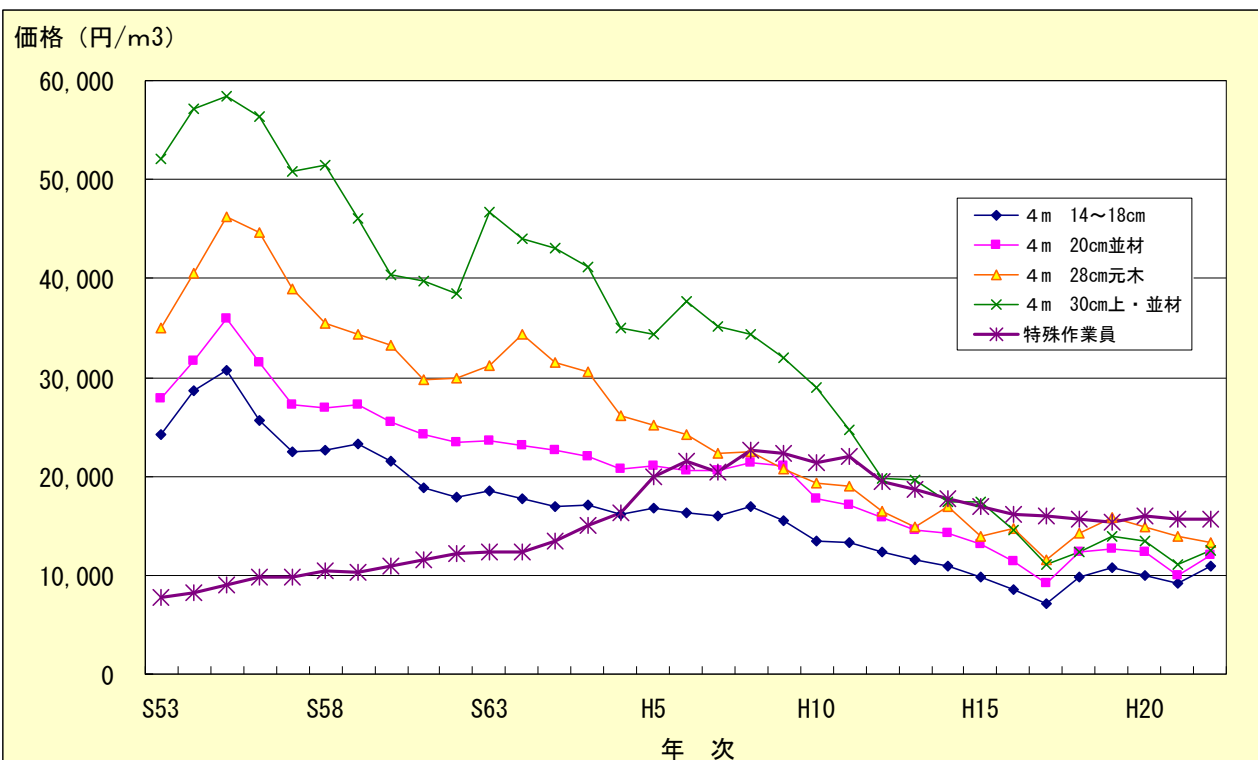
#### (1) 素材生産

昭和 55 年に 10 万 m<sup>3</sup> あった生産量は年々減少し、平成 12 年以降は約 4 万 m<sup>3</sup> で推移していましたが、近年は間伐材の搬出増に伴い増加傾向にあります。



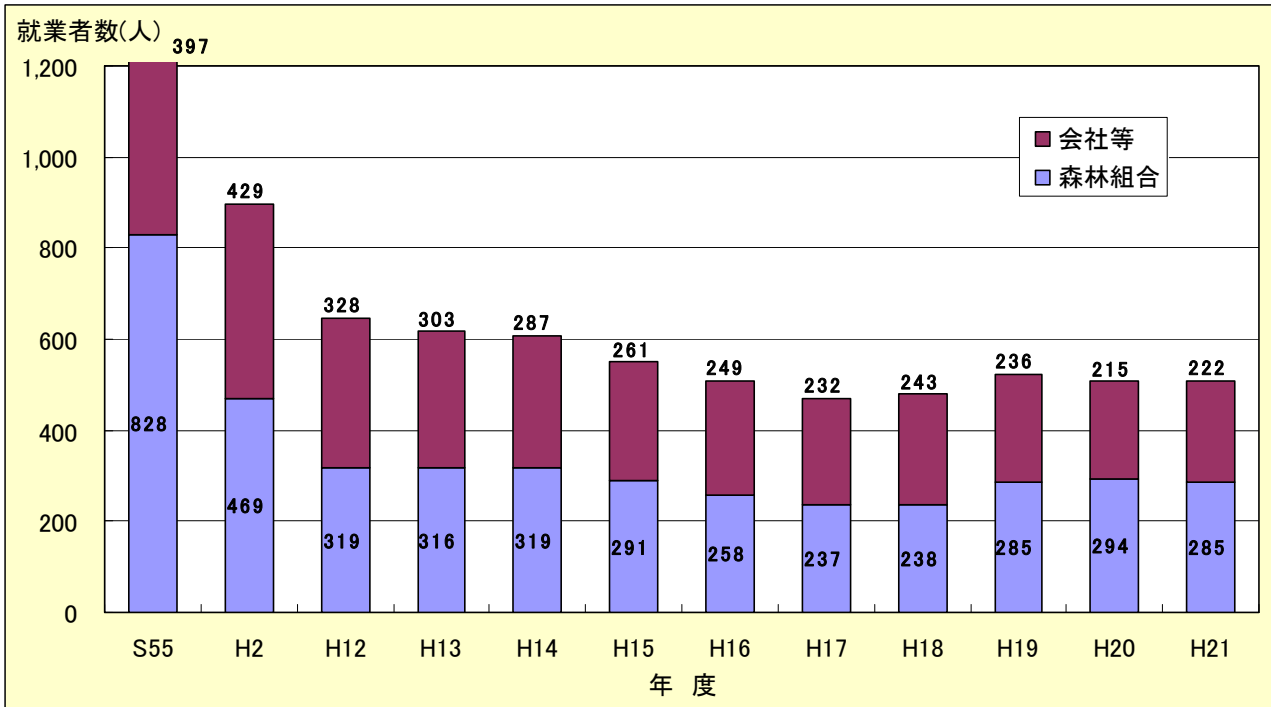
#### (2) 木材価格

昭和 55 年をピークとして木材価格は年々減少しています。平成 12 年以降は木材の規格（径級等）による価格差がなくなってきました。



### (3) 林業就業者

林業就業者は年々減少していましたが、平成 16 年度以降は横ばいで推移しています。  
 県内の森林組合の作業班員のうち、60 歳以上の高齢者が占める割合は減少 (H5:65.4%  
 ⇒ H18:30.1%) しており若返りが図られています。



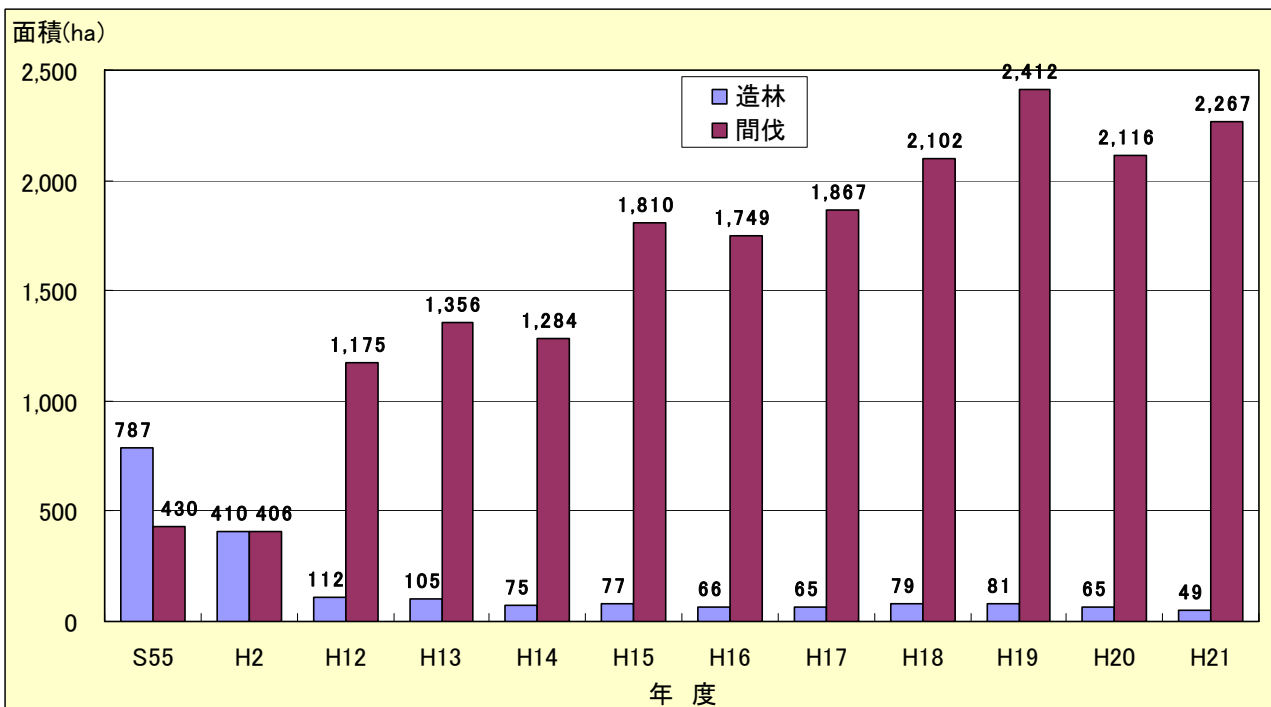
#### 【用語の解説】

林業就業者…富山県では、年間就業日数が 30 日間を超える者を林業就業者として扱っている。

### (4) 造林・間伐

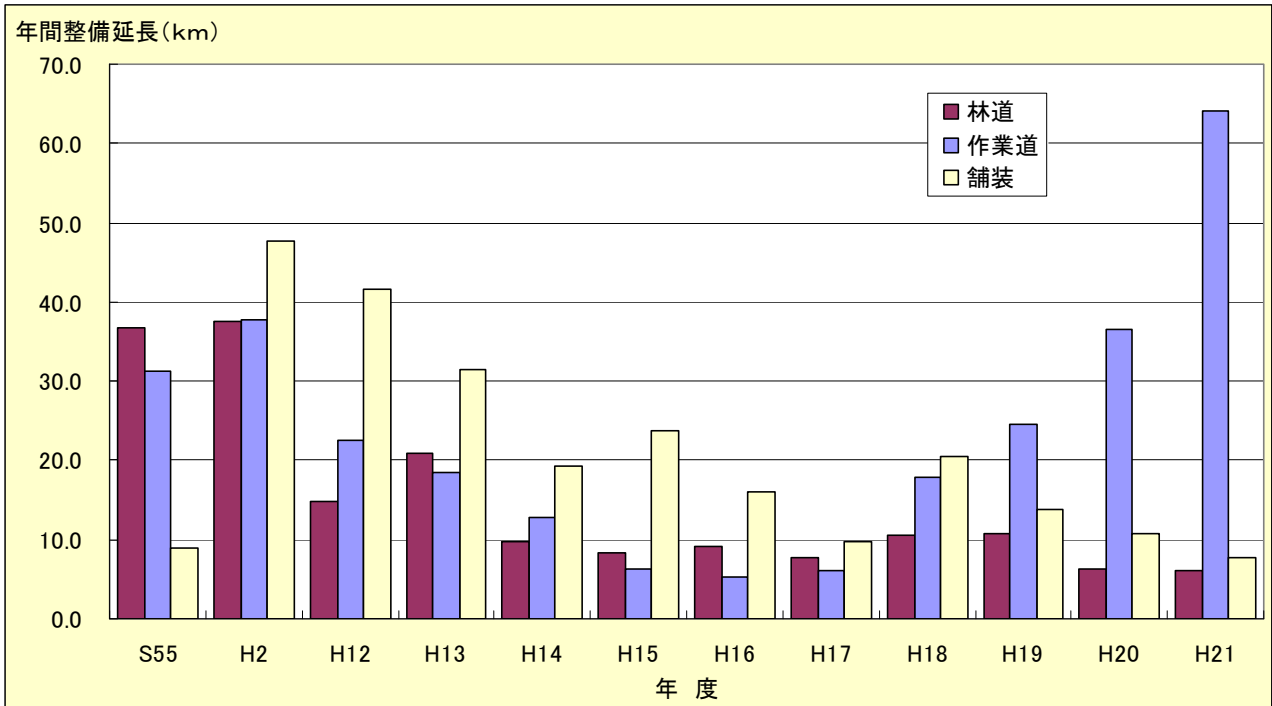
昭和 50 年代まで計画的に拡大造林が行われてきましたが、近年は、伐採後の再造林が主体となっています。

二酸化炭素の吸収源対策として、間伐を重点とした森林整備を推進しています。



### (5) 林道

林道の開設延長は、年間 10km 程度で推移しており、林道密度は 8.8m/ha となっています。間伐材の搬出に必要な林内の作業道開設が年々増加しています



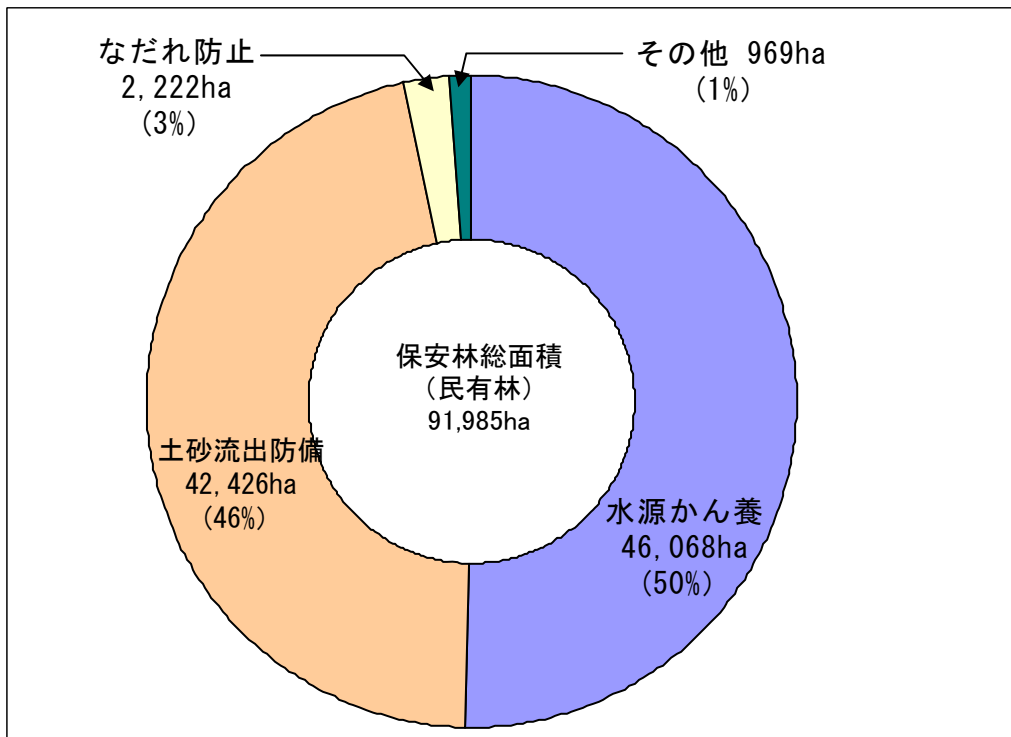
#### 【用語の解説】

林道密度…私有林内の単位面積当たりの道路延長。

### (6) 保安林（平成 22 年 3 月 31 日現在）

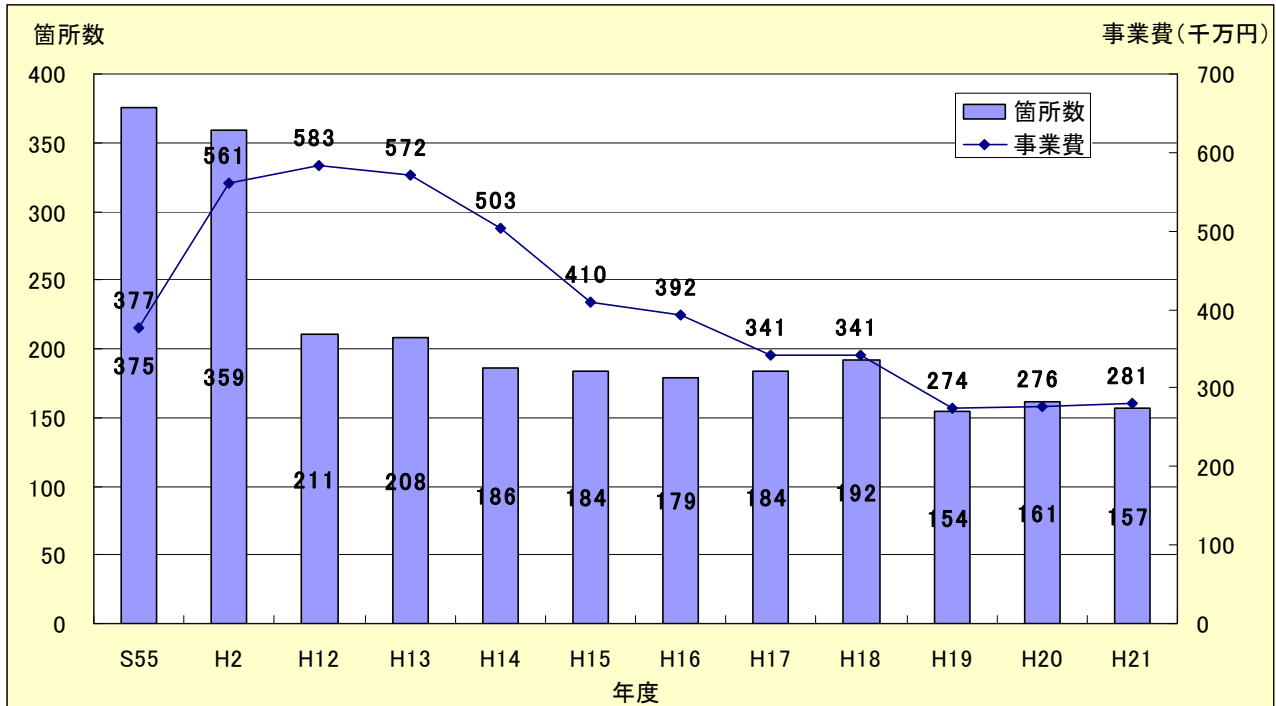
私有林内の保安林率は 51% と高く山梨県について全国第 2 位となっています。

国有林を含めた県内の保安林面積は 196, 373ha で、保安林率は 69% と全国第 1 位です。



## (7) 治山

事業費は年々減少していますが、山地災害を未然に防ぐため、危険度の高い地区から優先して整備しています。



## (8) 森林被害

松くい虫被害は、昭和38年の7,200m<sup>3</sup>をピークとして大幅に減少している。平成16年度以降300~400m<sup>3</sup>とピーク時の5%の水準で推移しています。

カシノナガキクイムシ被害は、平成14年度に南砺市(旧福光町)で初めて確認されて以来、県西部から県東部へと拡大・奥地化しています。また、去年は標高の低い丘陵地帯での被害も多く確認されました。

